

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075400327		
法人名	ケア・サービス 株式会社		
事業所名	グループホーム かえで (樹の街通り)		
所在地	〒807-1307 福岡県鞍手郡鞍手町大字室木801番地	0949-43-3900	
自己評価作成日	平成28年02月11日	評価結果確定日	平成28年03月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	093-582-0294	
訪問調査日	平成28年03月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ぬくもり・やさしさ・安心」を心がけ、利用者様一人ひとり、その人らしさの日常生活がこころ豊やかに過ごしていただけるよう、スタッフ一同、笑顔で接する事に努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25.26.27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20.40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38.39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:32.33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ぬくもり・やさしさ・安心、そして地域とのふれあい」の理念に基づき、職員は利用者一人ひとりに温かい声掛けやケアを行い、利用者が安心して生活出来る様に心がけている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	かえで通信というホーム便りを不定期で地域の皆様に回覧して、日頃の活動等、情報の共有に努めている。また、地元の小学校の入学・卒業式に参加したり、年に数回、児童たちとの交流親睦会を行っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町のイベントには努めて参加し、日頃の利用者の生活を理解していただけるようにパンフレットや展示物を持参・展示している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月ごとに併設の小規模多機能ホームと合同で運営推進委員会を開催。利用者家族・地域代表・町役場職員などの参加していただき、近況報告や運営、介護保険の問題点などを協議をしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町のふれあいフェスタなど、福祉イベントへの参加や、二ヶ月に一度の運営推進会議に参加していただいて、最新の介護の情報交換を行う機会を設け、協力関係を築くようしている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の防犯目的での施錠以外は常に開錠に努めている。「身体拘束廃止マニュアル」を作成し、拘束をしないケアの方法、あり方について職員の理解の共有に努めている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について理解を深める為に、積極的に研修などに参加し、学んだことをミーティングやカンファレンス内で話題にし、スタッフ間で意識を共有するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	可能な限り、成年後見制度に関する資料や研修を導入し、カンファレンスを行っている。 実際に成年後見制度を活用している利用者には、後見人に当たる司法書士の方に、利用者の日常の報告をできるだけ密に行い、必要な手続き等にもお互いに協力を行うようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約、契約改定前には、必ず口頭と文書による利用説明を行い、利用者の御家族の疑問や不安等の解消に努めている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護認定に関わる訪問調査や担当者会議には、本人やスタッフだけでなく出来る限り御家族にも同席していただき、御本人と、御家族、スタッフが意見交換出来る場を作っている。		
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にユニット合同のカンファレンスや個別カンファレンスを行い、代表者や管理者、スタッフが共に意見を交わす場を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々の家庭の事情や労働条件、スキル等を考慮し、働きやすい環境を作るよう、日頃からカンファレンスや個人面談を行っている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用は、年齢や性別制限は無く、個々の条件やスキルを生かした職務への配置に努めている。		
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的開催されるカンファレンスにて、入所者の尊厳や人権を尊重する大切さを全職員で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケア能力に応じた研修や、資格取得を受ける機会を設け、スキルアップに努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	利用者の空き状況の確認や、高齢者ネットワークや地域の研修への参加を通じて、出来る限り同業者との交流に努めている。同業者と相互関係に協力し、イベントなどで交流する機会を通して積極的に関わる取り組みをしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の安心と安全のための信頼関係を作る為、まずは本人の思いや希望・要望などを傾聴することに努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや要望等を傾聴し、信頼関係を築き、サービスの内容やタイミングを計ることに努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフは今持っている知識と技術を活用し、対応や困難な問題等の解決方法を見極めることに努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフも利用者との生活の時間を過ごす事で、介護させていただく立場と己を知り、同等目線の立場でお互い支え合っている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が利用者に対する思いを面会時や日頃のコミュニケーション等で把握し、日々の申し送りやカンファレンス、担当者会議を通じて職員の理解と、ケアに取り入れることに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族の協力のもと、自宅への一時帰宅やお墓参り、知人との手紙や電話のやり取りを支援している。</p>		
23		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士でトラブルにならない様に席の配置の工夫や見守りを行い、利用者の要望や不満があれば、関わりの中でゆっくりと聴くようにしている。</p>		
24		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約が終了した後も、了解を得て、その後も時節の挨拶の手紙をお出ししたり、お見舞い等に伺ったりしている。また、必要に応じて、家族からの相談支援をいただき、再契約を結ぶこともある。</p>		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活の中で、利用者がどのように暮らしていきたいのかをケアの中から把握し、家族の面会時や時間を作っての話し合いの中で、本人の意向に近づけるように検討している。</p>		
26		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用者の今までの生活歴や職歴、家族構成等、今までどんな風に生活していたか、どのようなケアを受けていたかなど、本人主体で把握するように努める。</p>		
27		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>その日の体調を把握しつつ、個々のADLを踏まえて、自立支援のもと、無理の無い生活を支援している。</p>		
28	13	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>御本人と家族、スタッフを交えた担当者会議にて利用者や家族の希望に添えるような介護計画作成に努めている。また、毎日のケア実施表やケース記録を通して、ケアの見直しを定期的に行い、利用者の現状に合ったケアの方針を立てている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に項目の区切りをつけ、生活の様子・食事の量・排泄・体温・血圧・気づいた点・本人の希望・レクリエーションなど記入し、ケアの実施をしながら見直しやスタッフ間の情報共有に勤めている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日個人個人の日常生活や個別ケアを通じて、その人に必要なニーズや要望に対し、早めに対応できるよう、日時にとらわれずサービス対応の実施に努めている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア(唄・踊り・餅つき等)など受け入れている。また、地元小学生の児童との交流会(年に1~2回)を開催し、楽しく生き活きたした生活を支援するように努めている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症に理解のある地元の病院の先生が、二週間に一度往診に来られる。また、今まで行きつけの病院や専門病院など、その時の状況に応じて他の病院の受診も支援している。		
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の症状に応じて、適宜、訪問医師と看護師が施設に来て、治療を行っている。利用者の状態を細かく報告し、先生の指示を仰ぐようにしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時の援助・入院中の経過・入院期間の確認や退院後の具体的なケアの見直しと急変時に対応できるよう、病院関係者や家族と常に連絡を取るようにしている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた実践はしていないが、病院の先生や家族と、利用者の体調の変化を把握した上で検討し、当ホームにて出来る限りの希望に沿ったケアを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の仕方を誰もができるように、事務室に一覧表を作って置いている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を利用者と職員で実施している。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に居室内は自由にしていただき、必要以上に他の居室にはむやみに入らないよう配慮している。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者がリビングにいる時は、職員との会話の時間を設け、希望や意思を汲み取るようにしている。また、入浴時など、利用者とスタッフが1対1で話が出る状況での利用者からの気持の表出には配慮するようにしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事時間など、個々の希望や体調によって、臨機応変に対応、支援を行うようにしている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、訪問散髪を行っている。 また、洗面台には、髪を整えるブラシや化粧水・乳液を置いている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずの彩りや器に合わせた配膳を心がけている。 車いすの利用者が多い為、配膳はスタッフがを行い、下膳は軽いコップのみ、一部の利用者にお手伝いをしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量や食べやすい形態を把握し、ケース記録に摂取量や水分量を記録している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに声掛けし、口腔ケアの実施を支援し出来る限り口腔内の健康維持を心がけている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれ一人ひとりの排泄パターンを把握し、それに沿った時間に声掛けをし、トイレ誘導や介助を実施している。		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	胃腸の衰えの出る世代なので、便秘を少しでも自然な形で解消する為に、こまめな水分の摂取や、食事に野菜を取り入れるように努めている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人に無理強いすることなく、その日の体調と希望を確認し、清潔を保持しつつ気持ちよく入浴を楽しんでいただくよう心がけている。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じて、ひとりひとりの体調や生活のリズムに配慮して声掛けし、休息や活動の支援をしている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも確認しやすいように最新の処方箋を個人別にファイルしている。また、服薬時には誤薬防止の為に、一包装された薬の袋に記載されている名前を声を出して確認し服薬介助をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとは、毎日の生活の中で一番大切なことだと思う。個人の嗜好や能力にあった気分転換の散歩や、利用者の横に寄り添い、話を聴く時間を設けている。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	早朝や夕方からは困難だが、天候などを考慮し、希望に応じたお出かけを計画している。		
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて、話をよく聞き、必要に応じて買い物支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話したり手紙を出したいときは、事前に家族や友人の了承を得て出来る限り実現するように支援している。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各所が清潔であるように心がけ、室内の温度や照明だけでなく、しつらえにも気をつける。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のリビングでも、本人が一番落ち着く居心地のいい場所を大事にして、できる限りその空間を確保するようにしている。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベッドの位置は安全を考慮しつつ、個人個人のADLに応じた場所に配置し、自宅にて使い慣れたタンスや布団などの持込をお願いしている。		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線上には不要な家具や置物を置かないようにする。必要に応じて手すりを設置する等、利用者の現状維持に努め、御自分ができることの妨げにならないケアを心がけている。		